

第 16 回総会議事録

日時： 2001 年 9 月 19 日（水） 12：00-13：00

場所： 北海道大学 E310 教室（H 会場）

(1) 部会報の発行について（山本委員）

10 月初（中）旬を目途に次回の発行を予定しているとの報告があった。

(2) 「炉物理夏の学校」開催報告（竹田委員）

第 33 回炉物理夏期セミナー（日時：7 月 30 日～8 月 1 日，場所：福井県芦原温泉「政 竜閣」，参加者：56 名）では，「21 世紀の炉物理の道筋をさぐる」をテーマとして活発な議論がなされたことが報告された。収支決算報告があった（別紙資料）。

(3) ANS ミルウォーキーミーティング合同セッション報告（竹田委員）

ANS ミルウォーキーミーティング（6 月 17-21 日，2001 年）では，炉物理部門の中に 4 つの炉物理の現状についての日米合同特別セッションが設けられ合計 26 のペーパーが寄せられたことが報告された（別紙資料）。また，日米共同企画の継続が期待されており，日本側から提案してほしいとの要望があることが報告された。竹田委員に故ヘンリー教授（IMT）の追悼講演の依頼があり行う予定であることが報告された。

(4) 日韓合同セッション報告（竹田委員）

韓国原子力学会（KNS）の春の大会（5 月 24～25 日，済洲島）で開催された日韓合同セッションでは炉物理・核データに関して 12 件の発表があったことが報告された。企画の継続については今後検討する必要があるとの報告があった（別紙資料）。

(5) 部会予算（案）（山根委員（担当委員代理））

特別会計を除いた今期部会収支予算について報告があった（別紙資料）。特別予算として計画している企画案件について拡大幹事会等で検討する必要があるとの意見が出された。

(6) 企画委員会報告（山根委員）

学会大会の受付けをオンライン（電子メール）で行う作業が進んでおり，来年の秋の年会の参加申込み受付け（予稿は郵送）から施行する予定であることが報告された。部会予算との関係から，部会への入会勧誘を積極的に行っていく必要があるとの意見が述べられた。学会としてジョイントセッションなどの企画を今後どうするのかを WG をつくってその方針を検討していくことになったとの報告があった。企画に関連して，佐治編集委員から，学会誌を情報誌と和文論文誌とに分割する検討が進められていることが報告された。

(7) 炉物理委員会新規 WP 設立について（中川氏（岡嶋委員））

平成 11～12 年度 WP 活動成果報告書を作成中であること，平成 13～14 年度は 1 未臨界 炉の炉物理，2 共用炉物理コードシステムの構築，3 軽水炉次世代燃料の炉物理のテーマで 3 つの WP が発足したことが報告された（別紙資料）。

(8) 若手小委員会報告（小坂委員）

炉物理夏期セミナーでの若手セッションでは約 30 名が参加し 3 件の研究報告が行われ活発な議論がなされたことが報告された。

(9) 部会懇親会（小坂委員）

総会当日（19 日）18：30 より「魚や一丁」にて開催予定の日韓交流・核データ部会合同懇親会の案内があった。

(10) その他

1 次期運営委員人事について（部会長）

工藤部会長より慣例として次期部会長は現部会長が就任することになっていることの確認がなされた。次期運営委員候補については，11 月までに任期満了予定の委員が後任候補を推薦することとし，来年 3 月の総会にて承認願うことが確認された。夏期セミナー委員については早めに決めておく必要があるとの竹田委員からの要請で，次期夏期セミナー委員として大杉氏（原研）の推薦があり，本総会にて承認された。

2 燃料ペレットについてのメールについて（仁科氏）

仁科氏より，RPD メールでの核燃料ペレットについての議論について，議論参加に対する

謝辞が述べられた。

3 編集委員会委員より（佐治委員）

学会誌の特集あるいは特集号の企画を部会から提案してみてもどうかとの意見が述べられた。本件については RPD メールにて案内を出し、幹事の方で取りまとめることとした。

4 京大炉将来計画について（代谷氏）

京大炉将来計画が文科省の段階までは認められたことが報告された。また、研究炉用燃料の問題：2006年以降は低濃縮ウランに変換しなければならないことやそれに伴う問題などの現状報告があった。

以上